事前説明会において気をつけておきたいこと

特に班付きのスタッフは、万障繰り合わせて事前説明会に出席し、受け入れの段階から担当のグループの子どもたちとかかわる

・「カウンセリングはクライアントがドアから入ってきた瞬間にすでに始まっている」

・第一印象は非常に大切である。

精神的または身体的に弱っている徴候がないかどうか、常に子どもたちの様子に気を配る

できるだけ子どもたちの話を聞く

・何を求めているか

・意欲がどれくらい強いか

必要なことを子どもたちに伝える

・グループの目標や活動、必要な技術について

・心理的、身体的なリスクがあること

・グループの参加者として何が求められるか

（対立すべき時は対立すること、心を開くこと、新しい行動に挑戦すること、他のメンバーとの間に信頼できる開かれた関係を築くこと、感情や意見を率直に表すこと、グループの外でも新しい行動に挑戦すること、など）

はっきりとした目的などなく、誰かに強制されてやってきた子どもの場合

・問題を解決するうえで、安心して頼れる場所にいることを伝える

・自ら努力する必要があることを伝える

・ゴール設定は、コースの間中続けられる活動であることを伝える

・コースを「やっていける見込み」について話し合う

・コース中、グループ体験をとおして自ら問題解決策を見つけるよう伝える

子どもたち一人一人がグループに向いているかどうかを正確に判断する

・この子の問題はグループで対処できることか？

・グループの他のメンバーと本当にうまくやっていけるのか？

・グループはリスクに対応できるのか？

コースに入る前にもう一度思い出しておきたいこと

冒険プログラムによるカウンセリングの本質

・プログラムに参加することによって自己概念を改善できるということ
・思いやりと責任を重視するグループ活動によってこれを援助する

冒険プログラムの本質的な目標

・「信頼すること」と「自信をもつこと」

目標を達成するための要素

・信頼関係の構築
・ゴール設定
・チャレンジ、ストレス
・ユーモア、楽しさ
・至高体験
・問題解決

状況に合わせてこれらの要素を組み合わせる

グループ形成の留意点

・共通の問題

子どもたち一人一人のニーズのうちいくつかはグループ共通の問題となる可能性がある。同じ体験を分かち合うことによって共通の目標を見出し、目標に向かって努力するうちにグループとしてのアイデンティティが生まれ、同じ理由でグループにいるという事実を分かち合い、自分を変えるためにそれまで自分を押さえつけてきた殻を打ち砕く力になるようグループを導いていくため、インストラクターはその共通の問題を中心にグループがまとまるかどうかを判断する。

・グループのバランス

強い者と弱い者をバランスよく集める。

グループは自然にリーダーを求める傾向がある。この自然なリーダーシップの芽生えを見つけ出すよう常に注目しておく。

・問題行動の可能性

積極的なメンバーがそろったグループであれば、「ある程度の問題を抱えた人」には対処できる。しかし、消極的だったり、異なった発達段階にあったり、または単に弱すぎる場合、その子どもはグループに合わない。

特に、良心の呵責を全く感じないとか、グループで一緒に活動する能力や意欲が欠けている子どもはグループワークに向かない。

メンバーの安全を最優先させ、グループの害になる子どもを受け入れてはならない。一人の子どものせいで他の子どもが被害を受けることがあってはならない。グループが安全で信頼のおける場所になるよう注意を払う。

・認知能力

認知能力の低い子どもを扱う場合、グループの他のメンバーの話に「耳を傾ける」能力があるかどうか注意する。

キャンプに関わるスタッフとして
大切にしていきたいこと

子どもたちをいつも見ていたい。

・・・見ていることで、子どもたちを知ることができるから。

★子どもたちがいつも視界の中にいるように

★いつも、子どもたちと一緒に

＊そばにいても、はなれていても

＊子どもたちと一緒にいても、それぞれが自由な時を過ごしていても

私はどこにいたら、
子どもたちの姿がよく見えるかな？

子どもたちの話を聞きたい。

・・・聞くことで、子どもたちを知ることができるから

★子どもたちを見ていて思うことは、「推測」であって、「事実」とは言えない。

子どもたちと話し合いたい。

・・・８泊９日、「共に生きる」のだから。

★話し合うことで、お互いが理解し合い、信頼し合える仲間になっていくことができるだろうから。

子どもたちに伝えたい。

・・・（アシスタント）インストラクターだから。

★子どもたちが自分の進み方を自分で決めるために、いくつかの方法を提案する。

子どもたちは自分の進み方は、自分で選択をして決めます。でも、進み方がわからなかったり、見つけられなかったり、自分の方法では思うようにいかなかったりすることもあるでしょう。

そんな時に私たちにできること・・・「指示」ではなく「非指示」でもなく「提案」を！！（複数で）

いろいろな技法・手法があって、それをたくさん知っていることも必要でしょうが、
まずは、心 が大切なような気がします。